

# 一ツ瀬川濁水軽減の 取り組みについて



一ツ瀬川水系濁水対策評価検討委員会

# 1 一ツ瀬川の濁水長期化問題

## 1 濁水の発生状況

一ツ瀬川では、平成16～18年の相次ぐ台風災害などにより、3年連続で100日を越える濁水が発生しました。特に平成17年は、濁水が翌年4月末まで連続で240日間も続き、新聞でも大きく取りあげられました。

濁水日数は、平成5年くらいから、急に増えてるよ！



## 2 濁水長期化の原因

どうして、一ツ瀬川では濁水が長期化するの？

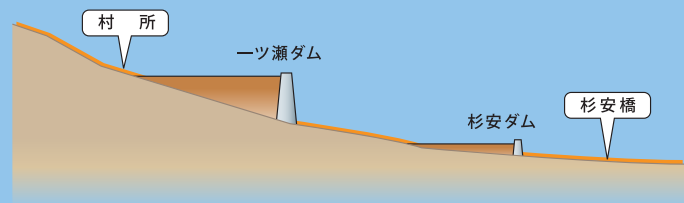
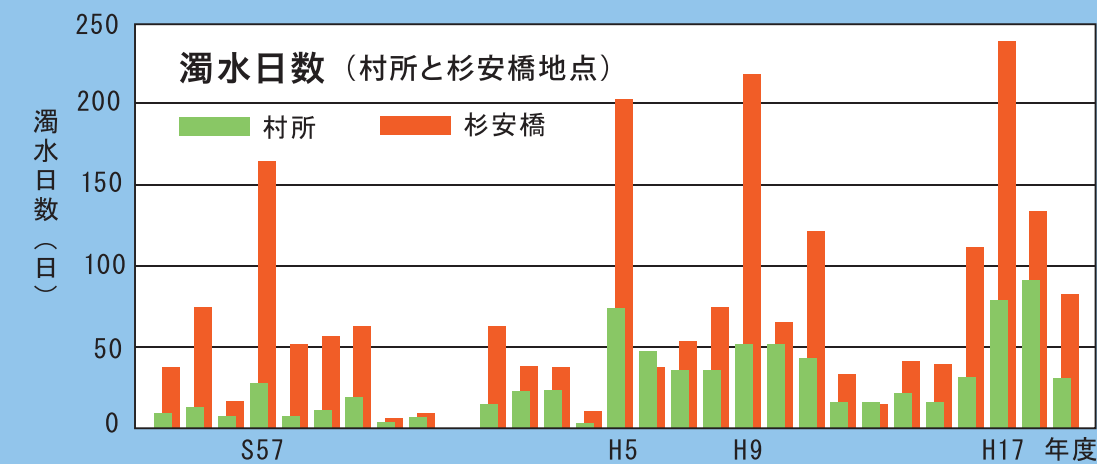
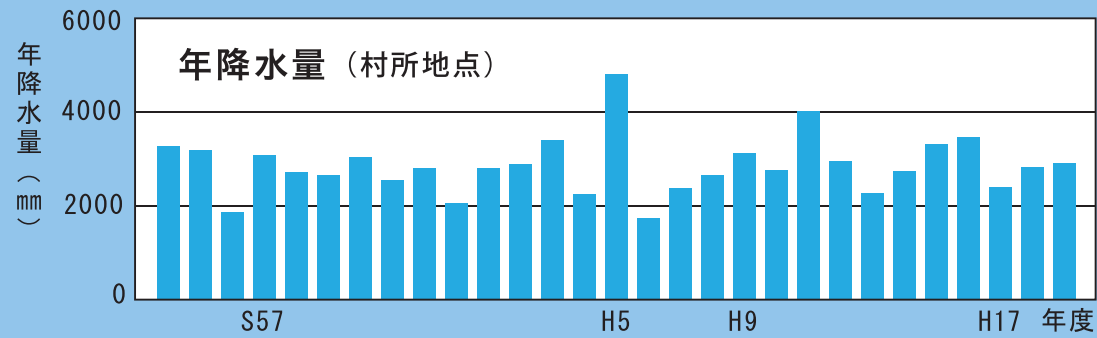


では、なぜ一ツ瀬川でこのような濁水の長期化が起こるのでしょうか？

これまでの調査や研究から、濁水長期化の原因として、以下のようなことが考えられています。

### 《原因》

- ① 一ツ瀬川の上流には、「乱雑層(らんざつそう)」と呼ばれる、とても細かく沈みにくい性質の土が分布しており、この土が雨に流されて濁水になります。
- ② 一ツ瀬ダムは貯水量がとても大きいので、ダムに流れ込んできた濁水を大量に貯め込んでしまいます。



村所、杉安橋位置図

でも、年降水量はそれほど増えていないようにみえるね！



### 【濁水長期化のイメージ】



上流域に分布する乱雑層の例

九州最大だって！



## 2 濁水軽減への取り組み

### 1 上流域での取り組み

これまでの上流域対策としては、平成11年より、宮崎県、関係市町村、九州電力の協力による「環境保全の森林整備事業」において、植林や崩壊地などの緑化に取り組んできました。



植林

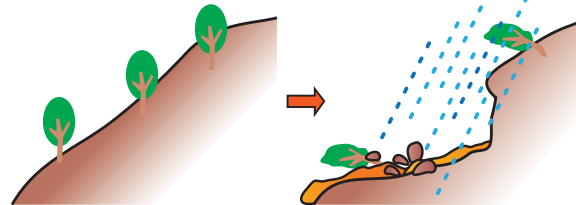


崩壊地の緑化

平成19年に上流域で濁水が発生している仕組みについて調査した結果

- 上流域に濁水長期化の原因となっている土(乱雑層)が分布している
- そのような箇所にある、崩壊地、作業道などの裸地が濁水の発生源として考えられる などがわかりました。

濁水発生の仕組み



崩壊地の例

以上の調査結果など踏まえて、次の対策を進めていくこととしています。

- 適切な間伐による多様な樹種や林齢の混ざり合った森林への誘導
- 濁水防止などの基準を定めた「宮崎県作業道等開設基準」に基づいた施工の指導
- 山腹崩壊地の植栽などの緑化工による早期復旧

これからは  
どんなことを  
やるの？

- これからの「環境保全の森林整備事業」の取り組み
- 間伐への支援の継続
  - 作業道、崩壊地など裸地への重点的な緑化の実施



これらの対策を推進していくためには、流域住民の皆さまの理解と協力が不可欠です！

※計画書について詳しくは県のホームページをご覧ください。

「みやざきの環境」内の行政情報(県の取り組み・計画・条例) [URL] <http://eco.pref.miyazaki.lg.jp>

平成20年6月策定 「一ツ瀬川濁水軽減対策計画書(改訂)」※より

### 2 中下流域での取り組み

これまでの中流域対策としては、一ツ瀬ダムの選択取水設備の設置や濁水早期排除運用の実施、濁水制御膜の設置などに取り組んできました。



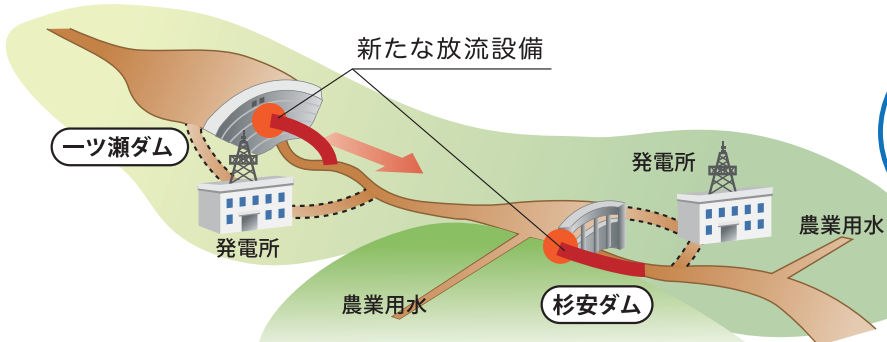
選択取水設備



濁水制御膜

平成17年のような大量の濁水が流れ込む状況について調査した結果

- これまでの対策では濁水が非常に長引く ことがわかりました。



「新たな  
対策」って  
どんなこと  
するの？

以上の調査結果など踏まえて、次の「新たな対策」を進めていくこととしています。

- ダムに新たな放流設備をつくります。

濁水長期化が予想される場合は

- ダムからたくさん放流して濁水を貯め込まないようにします。
- 濁水が少なくなったダムに出来るだけ早く、きれいな水を貯めます。

[「新たな対策」は段階的に実施し、平成25年度から本格実施。]

ダムにきれいな水を早く貯めるためには、流域の環境に配慮しながら、一時的に放流量を現在よりも減少させます。ダムに十分な水が貯まれば、すぐに通常の放流量に戻します。

みんなで  
取り組む  
んだよ！

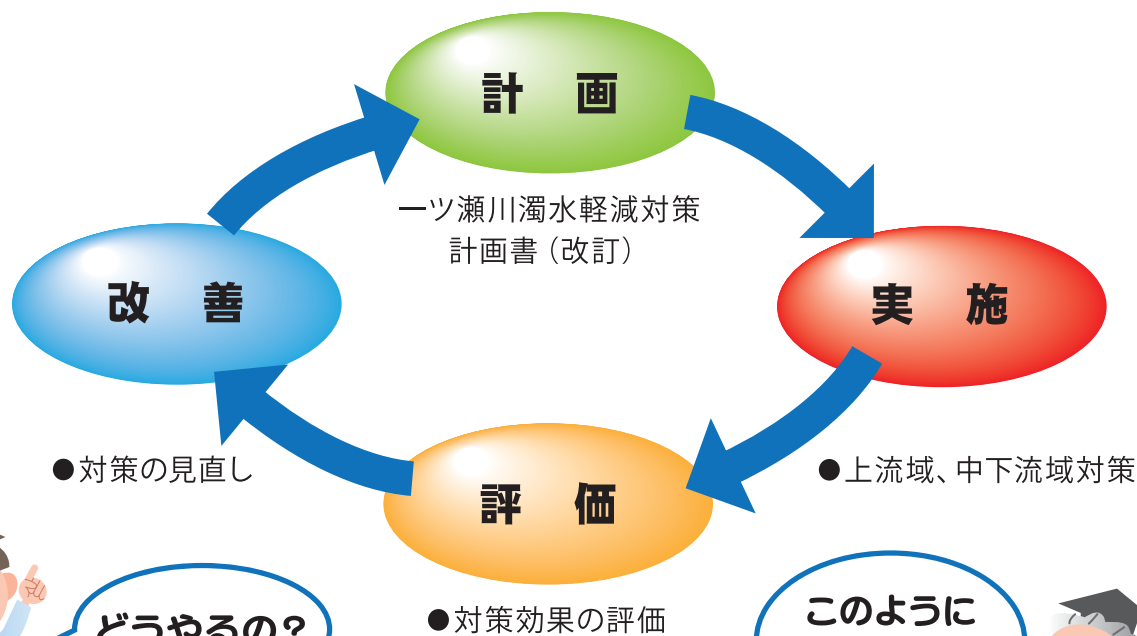


### 3 これからの濁水長期化問題への取り組み体制について

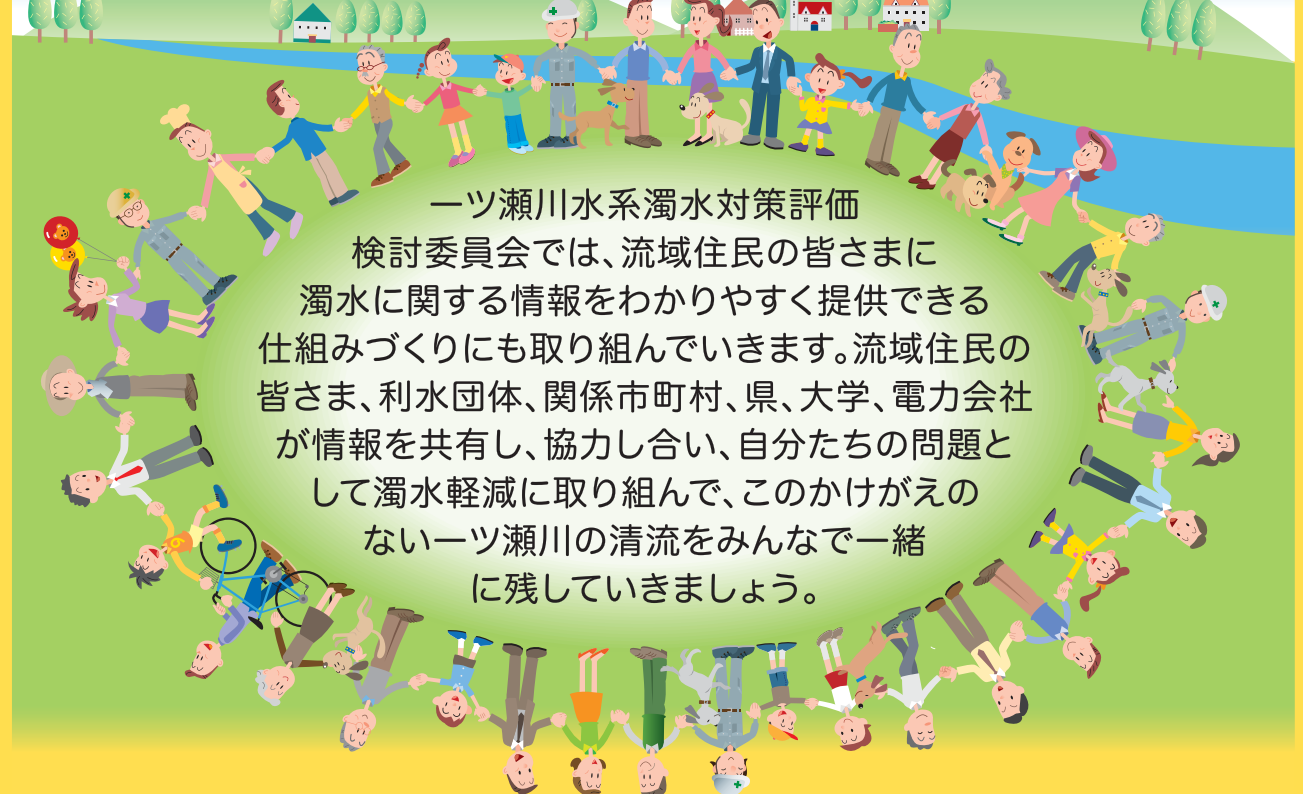
流域一体となった対策を確実に、そして継続的に実施、評価、見直しを行っていくために、「一ツ瀬川水系濁水対策評価検討委員会」を設立しました。

#### 一ツ瀬川水系濁水対策評価検討委員会のメンバー構成

流域市町村					宮崎県				学識経験者	九州電力(株)
宮崎市	西都市	新富町	西米良村	椎葉村	福祉保健部	環境森林部	農政水産部	県土整備部		



### 4 流域一体となった濁水長期化問題の取り組みに向けて



#### 流域一体となった取り組み事例

#### やはぎがわ ～ 矢作川で生まれた流域管理「矢作川方式」～

愛知県、岐阜県、長野県をまたがる矢作川では、流域の漁業者、農業者、市町村、県などが一体となった「矢作川沿岸水質保全対策協議会」を中心とし、水質保全パトロール・指導、開発手続きにおける協議、流域住民の参加、学習・交流といった水質保全活動に取り組んでいます。



この活動は「矢作川方式」と呼ばれ、民間主導型の流域管理の一つの方法として定着しており、1999年に「日本水大賞」の第1回グランプリを受賞するなど、全国的にも高い評価を得ています。



写真：ホームページより

<http://www.mlit.go.jp/tochimizushigen/>



## 一ツ瀬川水系濁水対策評価検討委員会

---

宮崎市 西都市 新富町 西米良村 椎葉村

---

宮 崎 県

---

宮崎大学

---

九州電力株式会社

---

